
君が死んだら、世界を殺して僕も死ぬから

euReka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君が死んだら、世界を殺して僕も死ぬから

【Nコード】

N4608M

【作者名】

eUReka

【あらすじ】

「毎晩、夢の中で押ししてるよ」。サディスティックな世界に生きる僕らの、サディスティックな希望と絶望。

ある夏休み、僕は怪物と出会った。

「はぁーん、ブふふーん！」

二億年の眠りから目覚めた怪物のミーちゃんは、肺に溜まった力を吐き出しながら、死ぬほどまぶしい青空や、水平線を白く支配する入道雲を5万カラットの瞳でキラキラと眺めていた。

「ねえミーちゃん、今から海へ行こうぜ！」

「いいよ、ケンちゃん！」

海水浴場へ着くなり、僕はTシャツを脱ぎ捨て海へ飛び込んだ。

しかしミーちゃんは水際で、ポツンと海を眺めるばかり。

「こわくない、こわくない」

ミーちゃんは心を決めてプルルと海に入ると、背中から潮を吹き上げた。

「すごい！ 虹だ！」

ミーちゃんは周りの海水浴客を激しく殴打しながら、バタバタと不器用に泳ぎ始めた。水辺にはミーちゃんのバタバタで犠牲になった人々の死体が、プカプカと浮かび上がった。

「ケンちゃん、助けて！」

僕は急いで軍用ヘリに乗りこむと、劣化ウラン弾をミーちゃんめがけて撃ち込んだ。

「もっと優しくして」

ミーちゃんはパニックを起こしたのか、逃げ惑う人々をフライドチキンみたいにムシヤムシヤと食べていた。暴走したミーちゃんは砂浜に上陸すると、そのまま都市を破壊し始めた。

「もう、どこへも戻れなくなる」

僕は沖合いの巡洋艦に回線を繋ぎ、トマホークミサイルの発射を命じた。しかし、ミーちゃんは攻撃をもろともせず、夏の空に向か

つて悲しく雄叫びを上げながら、世界貿易センタービルや六本木ヒルズなどを破壊し続けた。

「ねえ、こんど虫採りに行こうよ！」

僕は空軍を回線で呼び出し、非核兵器の中では最高の破壊力と残酷性を持つバンカーバスターという大量破壊兵器の投下を命じた。

「でも虫って、すぐに死んじゃうでしょ」

……事件から200年後、僕は死刑囚専用の独房で死を待っていた。ミーちゃんの暴走を止めるために都市を壊滅させ、無辜の市民を600万人も虐殺してしまったことで国際軍事裁判にかけられた僕は、「平和に対する罪」で死刑判決を受けたのだった。

ミーちゃんは暴走後、強度の疲労で休眠状態に入り、そのまま地下深くに封印されたのだという。

「あのとき、どうして核ミサイルのボタンを押さなかったの？」

「毎晩、夢の中で押ししてるよ」

ある寝苦しい夏の夜、僕は突然目を覚ました。

「君にまた、会いたいな」

刑務所中のサイレンが狂ったように鳴り響き、独房の壁や天井がバリバリと破壊されていく。

「夢の続きを、始めましょ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4608m/>

君が死んだら、世界を殺して僕も死ぬから

2010年10月20日12時47分発行